（業務用参考資料）

U.S.Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 拡大に歯止めがかからない貿易赤字（05年２月貿易統計）

～過去最悪水準更新～

発表日：05年4月12日（火）

(No.UI－003)

第一生命経済研究所　経済調査部
桂畑　誠治(かつらはた　せいじ)
(03-5221-5001、4518：seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

貿易収支（U.S.International Trade in Goods and Sevices）

	貿易収支			輸出			輸入		
	Balance	財 Goods	サービス Services	Exports		財 Goods	Imports		財 Goods
04/05	▲473.89	▲515.70	＋41.81	＋2.7	(＋17.5)	＋4.2	＋1.0	(＋17.0)	＋1.0
04/06	▲554.21	▲592.13	＋37.92	▲4.0	(＋10.1)	▲5.8	＋2.9	(＋19.2)	＋3.0
04/07	▲507.08	▲548.57	＋41.49	＋3.1	(＋12.2)	＋4.3	▲1.2	(＋16.1)	▲1.3
04/08	▲539.68	▲570.79	＋31.11	＋0.4	(＋14.7)	＋0.8	＋2.5	(＋21.0)	＋2.3
04/09	▲511.88	▲550.80	＋38.92	＋1.2	(＋13.5)	＋1.7	▲1.1	(＋16.9)	▲0.7
04/10	▲558.91	▲602.09	＋43.18	＋0.5	(＋11.4)	＋0.1	＋3.5	(＋18.9)	＋4.2
04/11	▲594.15	▲634.76	＋40.61	▲0.8	(＋8.0)	▲1.7	＋1.8	(＋20.4)	＋1.6
04/12	▲557.44	▲598.58	＋41.14	＋3.2	(＋11.5)	＋4.4	▲0.4	(＋16.5)	▲0.5
05/01	▲585.04	▲624.67	＋39.63	＋0.0	(＋13.1)	▲0.0	＋1.8	(＋18.1)	＋2.0
05/02	▲610.36	▲647.37	＋37.01	＋0.0	(＋8.7)	＋0.1	＋1.6	(＋16.8)	＋1.8

注1）季節調整値。貿易収支の単位は億ドル。
注2）輸出入の数字は前月比。カッコ内は前年同月比。

	輸出					輸入				
		原材料 *1	資本財 *2	自動車 *3	消費財 *4		原材料	資本財	自動車	消費財
04/06	▲5.6	▲7.2	▲8.2	▲3.6	▲1.1	＋3.0	＋9.8	＋4.7	▲3.7	▲0.3
04/07	＋3.8	＋7.4	＋5.2	＋8.4	▲2.2	▲1.3	▲3.4	▲0.6	＋2.3	▲1.5
04/08	＋0.9	▲1.8	▲0.1	＋3.2	＋4.1	＋2.3	＋8.0	▲0.4	＋0.5	▲0.4
04/09	＋1.9	＋2.6	＋1.0	▲1.2	＋2.6	▲0.7	▲3.0	＋1.5	＋1.3	▲0.2
04/10	▲0.1	＋2.9	＋0.1	▲0.8	＋0.0	＋4.1	＋8.3	＋1.0	▲0.4	＋5.5
04/11	▲1.8	▲1.8	▲3.4	▲1.5	▲0.4	＋1.6	＋4.0	▲0.6	▲2.1	＋2.3
04/12	＋4.3	＋4.1	＋5.8	＋3.7	＋6.9	▲0.4	▲2.8	＋1.8	＋1.0	▲0.6
05/01	▲0.2	＋0.0	▲0.6	＋3.4	▲1.9	＋2.0	▲1.7	＋2.1	＋3.0	＋5.5
05/02	＋0.1	＋2.7	▲1.3	▲3.2	＋3.2	＋1.8	＋6.1	▲2.5	＋0.8	＋2.0

注）季調済前月比伸び率。
*1: Industrial supplies and materials　　*2: Capital goods, except automotives
*3: Automotives vehicles, parts and engines　　*4: Consumer goods, except automotives

	輸出						輸入					
		カナダ	中南米	EU	太平洋工業国	日本		カナダ	中南米	EU	太平洋工業国	日本
04/05	＋16.2	＋7.4	＋17.9	＋17.3	＋19.8	▲4.8	＋15.6	＋13.0	＋15.6	＋12.8	＋17.4	＋8.3
04/06	＋10.9	＋9.6	＋14.6	＋6.0	＋9.5	＋7.5	＋22.4	＋23.9	＋24.9	＋14.3	＋23.8	＋13.0
04/07	＋12.0	＋14.9	＋12.0	＋10.6	＋8.7	＋8.5	＋14.4	＋15.4	＋13.5	＋5.9	＋17.2	＋9.0
04/08	＋15.3	＋23.6	＋18.3	＋11.0	＋9.5	▲0.4	＋24.7	＋25.4	＋19.6	＋19.9	＋23.8	＋17.9
04/09	＋15.7	＋14.8	＋14.5	＋14.9	＋16.8	＋7.0	＋16.6	＋13.1	＋21.5	＋7.1	＋18.7	＋11.7
04/10	＋11.0	＋9.1	＋10.4	＋10.4	＋9.6	＋20.3	＋15.5	＋12.7	＋18.8	＋6.9	＋11.4	＋3.2
04/11	＋8.2	＋14.9	＋15.0	＋4.1	▲2.6	▲5.2	＋26.9	＋21.8	＋26.4	＋15.8	＋24.0	＋13.2
04/12	＋13.9	＋15.5	＋15.1	＋17.8	＋4.4	▲0.2	＋16.2	＋13.5	＋16.6	＋9.0	＋17.2	＋10.5
05/01	＋12.0	＋16.3	＋13.8	＋9.9	＋6.1	＋0.3	＋18.3	＋17.0	＋18.0	＋15.1	＋16.9	＋10.5
05/02	＋7.8	＋12.4	＋9.1	＋6.4	▲0.3	▲0.1	＋17.1	＋12.9	＋15.8	＋7.5	＋22.4	＋8.0

注1）未季調前年比伸び率。
注2）中南米はメキシコを含む 原統計の 中南米」は含まない）。

▲610.36億ドルと過去最悪水準

2005年２月の米国の貿易収支（サービスを含む国際収支ベース、季節調整済）は、610.36億ドルの赤字（前月比＋4.3%）と、赤字額が市場コンセンサスの▲590億ドルを大幅に上回り過去最悪となった。サービス収支の黒字額が縮小し、財収支の赤字額が過去最悪水準に拡大した。輸出は、産業資材、消費財が増加したもののの、資本財、自動車の減少を主因に前月比＋0.0%と横這いにとどまった。一方、輸入は原油価格の上昇等による原油輸入の大幅増や堅調な国内需要を映じた消費財、自動車の増加によって同＋1.6%となった。

１月の赤字額が速報の▲582.7億ドルから▲585億ドルに上方改定され、２月が過去最

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

悪水準となったことで、１～３月期の純輸出の実質ＧＤＰ寄与度は、前期比年率▲1.4%と10～12月期の同▲1.35%に続き大幅な押し下げが見込まれる。

目先、原油価格の高止まりや成長率格差を背景に貿易赤字の拡大が続く公算

原油輸入の増加に加え、原油以外の輸入も高水準で推移しており、現状の貿易・経済構造では貿易赤字の根本的な削減は難しいと考えられる。貿易赤字を大幅に縮小させるためには、輸入が減少するか、輸出が大幅に増加する必要がある。しかし、輸入を減少させるには、国内の消費を抑制しなければならず雇用の拡大ペースが鈍化、或いは減少し、景気後退に陥るリスクがある。このため、輸入が増加するなかで輸出が大幅に拡大する必要がある。この方法としては、①貿易相手国の輸入障壁の撤廃、②輸出先の米国を上回る高い成長（米国輸入の所得弾性値が貿易相手国よりも高く上昇トレンドにあるため）、③ドル実効レートの減価、が挙げられる。①、②については、貿易相手国の輸入障壁は簡単にはなくならず、また貿易相手国の金融財政政策が米国ほどの柔軟性に欠けるため高い成長も期待できない。

ドルの実効レートは、景況感・金利格差を背景に足下で再びドルが持ち直している。今後も、継続的な利上げが予想されるため、ドルの急落は避けられるとみられる。しかし、米政権は、為替レートはファンダメンタルズに基づき市場で決定されるとのスタンスを維持すると予想される。このような中、ドルの売り材料となり易い双子の赤字に関しては、財政赤字が補正予算等によって再び拡大すると見込まれる。一方、原油価格の上昇や成長率格差によって貿易赤字の拡大が続くとみられ、経常赤字は拡大傾向に歯止めがかかる可能性は低いことから、ドルの上値が抑えられよう。

引き続き中国が最大の赤字国

地域別の収支では、対中国が▲139億ドル（前年比＋67.5%）と14ヵ月連続で最大赤字国となった（**貿易赤字全体の25.5%に小幅低下**）。対欧州は▲85億ドル（同＋9.5%）と高水準で推移しており、欧州景気の下支え要因となっている。欧米金利差の拡大が続くものの緩やかなペースが予想されることや、高水準の対欧州貿易赤字が続くと見込まれること、ＥＵ拡大に伴うユーロへの需要が増加傾向にあることから、ユーロは対ドルで強含み易い環境が持続しよう。対ＮＡＦＴＡが▲94億ドル（同＋9.4%）、対日は▲69億ドル（同＋13.5%）、対ＯＰＥＣが▲63億ドル（同＋33.1%）と高止まりしている。

輸入では、原油の急増に加え、国内需要の好調を映じ自動車、消費財が増加

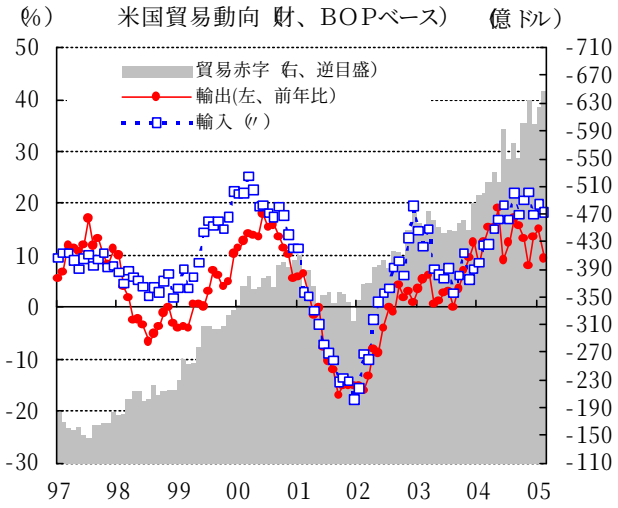
通関ベースでは、輸入は資本財が減少したが原油等産業資材、消費財、自動車の増加によって前月比＋1.8%と１月に続き高い伸びとなった。一方、輸出は資本財、自動車が減少したものの、産業資材、消費財が拡大したため小幅増加に転じた。

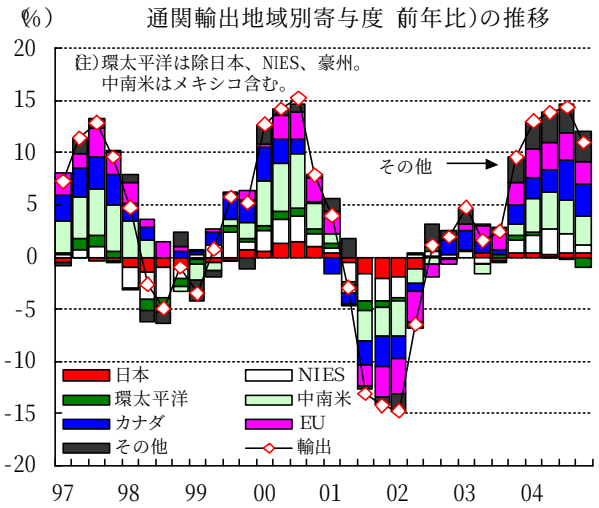
輸入の商品別内訳では、①自動車を除く資本財輸入は、コンピューター、金属加工機械等が増加したものの、民間航空機・同エンジン、コンピューター部品、医療機器、半導体、電気装置、写真・現像機器、産業機械・同エンジン等の減少により同▲2.5%と３ヵ月ぶりに減少した。一方、②産業資材は、原油、天然ガス、石油製品、鉄鋼等の拡大により前月比＋6.1%と３ヵ月ぶりの増加となった。特に、原油は同＋11.8%と急増した。③消費財は、その他家財道具、ＴＶ・録画機が減少したものの、調合薬、アパレル・繊維関連、玩具・ゲーム・スポーツ用品、骨董品・絵画、iPodなど音響機器が増加したため同＋2.0%と増加した。④自動車は、海外自動車メーカーの好調な販売を映じて同＋0.8%と３ヵ月連続で増加した。

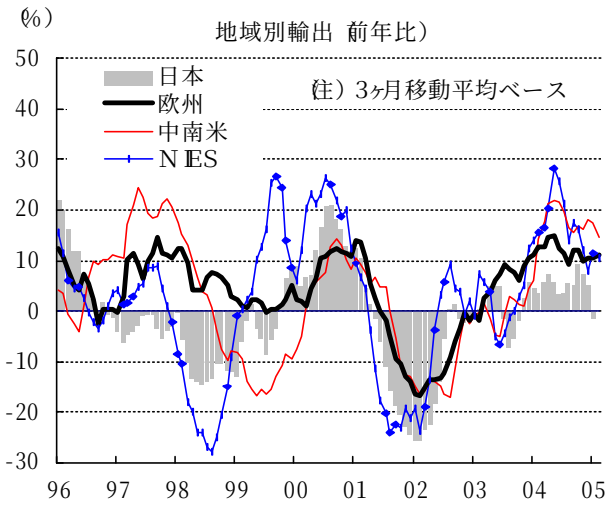
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

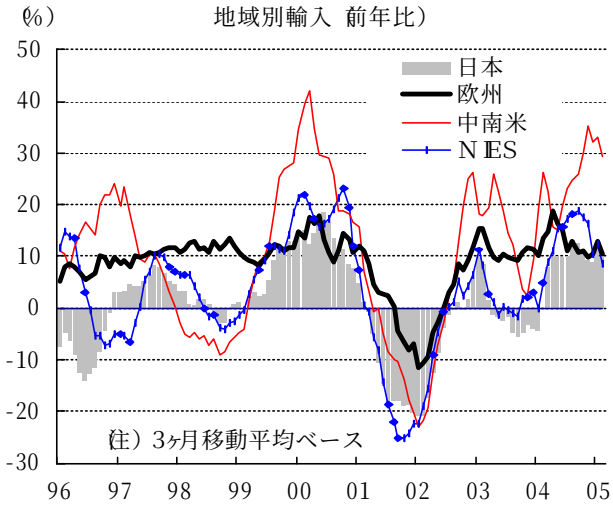
輸出でもエネルギー関連、調合薬が増加

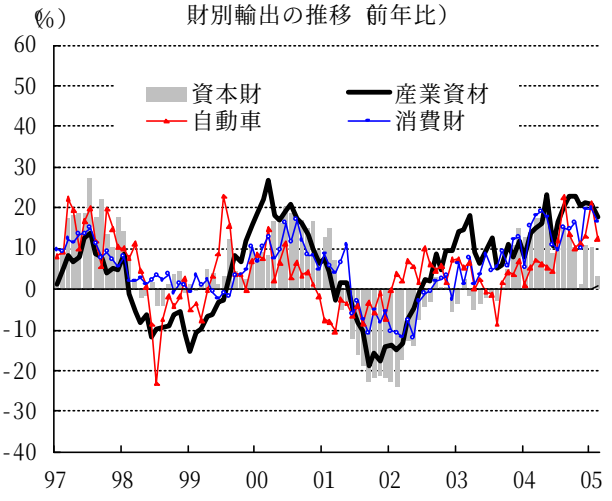
輸出の商品別内訳では、①資本財は、通信機器、コンピューター部品、金属加工機械、産業機械等の減少により同▲1.3%と２ヵ月連続の減少となった。②自動車は前月比▲3.2%と３ヵ月ぶりに減少した。一方、③産業資材は燃料油、石油製品、プラスチック原材料等の拡大によって同＋2.7%と増加した。④消費財は、調合薬等の拡大によって同＋3.2%と増加した。

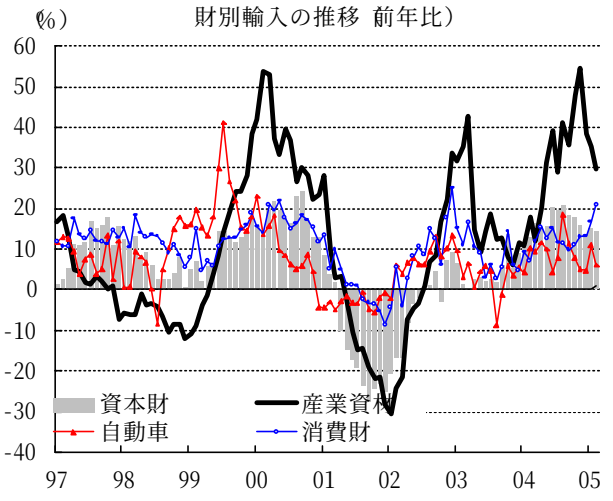












本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。